令和６年 12 月 12 日

総務委員会

デジタル・スマートシティ推進課

浜松版 MaaS 構想の改定について

１　報告趣旨

- 今年度に第一期が終了する「浜松版 MaaS 構想」の第二期案について報告するもの。
- 今年６月の総務委員会において第二期は現行の内容を大筋で踏襲するため、パブリックコメントは実施しない旨を報告済。

２　改定内容

第二期案は、別紙のとおり。主な改定内容は、以下のとおり。

背景	現状や本市フェローの意見などを参考に修正
活かすべき本市の強み	以下４項目を追加（計７項目）。 ・多様な文化背景を持つ市民が共に暮らす多文化共生都市 ・音楽のまちづくり（ユネスコ創造都市ネットワーク加盟） ・多様な地形が育む多彩な食 ・全国トップクラスの健康寿命
目指す方向性（基本理念）	大きな変更なし
構想推進の考え方	・重点分野を「健康・医療・福祉」「生活インフラ」「ウィズ/ポストコロナ」「防災・安全」から「ウエルネス・医療・福祉」「交通・物流」「産業・観光」「防災・安全」に変更 ・ビジョン実現に向けた基盤を、共同幹事の意見や現状を踏まえてデータ利活用からドローンや自動運転に変更
考えられるサービスのイメージ	市の担当部署および浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム会員からここ５年以内に浜松市内で実施する取り組みをヒアリングしてとりまとめたものにアップデート ※現時点では文字のみとなっているが、完成版ではイラスト入りのイメージ図で掲載

第二期（案）

浜松版MaaS構想

Digital Smart City HAMAMATSU

背景

- わが国では、都市部における道路渋滞、地方における交通サービスや移動サービスの縮小、さらにはドライバー不足の発生など、交通サービスに様々な問題が生じています。一方で、オンデマンド配車システムや自動運転等の交通サービスに関する新たな技術が進展するなど、これらの問題が解決する可能性のある取り組みの検討が進みつつあります。
- 広大な市域を持ち、国土縮図型都市である本市も、人口減少・少子高齢化を背景とした様々な課題に直面しています。市民の移動手段の確保、生活サービス（買物や医療等）の維持などは大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められています。
- まちづくりにおいては利便性だけでなく、暮らしやすさと幸福感を実感できるように、地域全体のWell-Beingを官民で高めていくことが必要です。
- また、近年は自然災害の激甚化・頻発化が進んでおり、南海トラフ地震の懸念も大きくなっている中、災害への対応も求められています。各種サービスにおいては、平時だけでなく、災害時の使用方法も検討し、迅速な対応が取れるよう備えておくことが重要です。

活かすべき本市の強み

- **多様な暮らし方**や**楽しみ方**を可能にする環境（国土縮図型都市／交通至便）
- **やらまいか精神**や**共助の心**を持った企業と市民が共存
- **ものづくり力**（世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカ等の集積／スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市）
- 多様な文化背景を持つ市民が共に暮らす**多文化共生都市**
- **音楽のまちづくり**（ユネスコ創造都市ネットワーク加盟）
- 多様な地形が育む**多彩な食**
- 全国トップクラスの**健康寿命**

目指す方向性（基本理念）

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と浜松の暮らしはもっと輝く

人口減少・少子高齢化で限られた資源（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。
さらに、ヒトの移動にとどまらない価値を創出し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

必要な視点１：地域ごとの魅力の最大化

都市部から中山間地まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の魅力を市民・来訪者いずれにおいても最大化します。

必要な視点２：ともに支え、ともに創造

人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。

必要な視点３：しなやかに繋がる

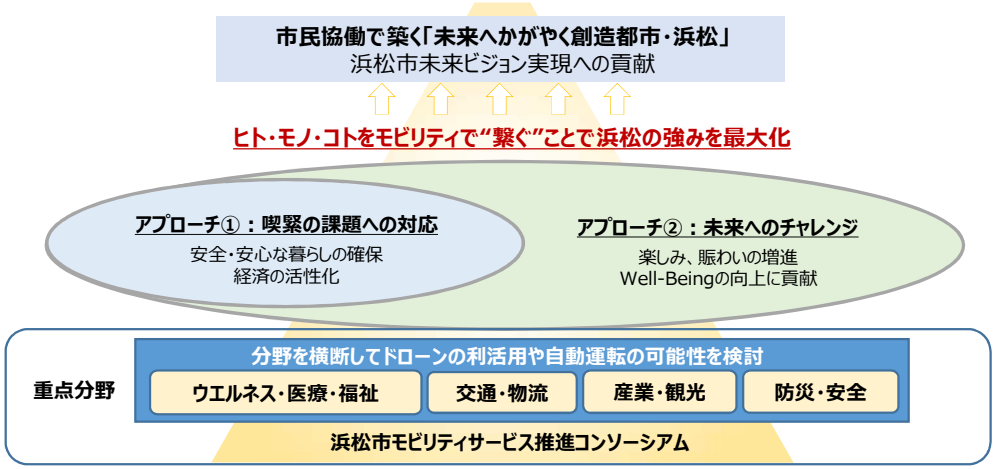
利用者目線のシームレスなサービスや、平時から有事（自然災害・パンデミック等）の運用を想定したサービス・デザインなど、しなやかに繋がる地域を構築します。

必要な視点4：市民起点でのまちづくり

デジタルテクノロジーは手段として捉え、高齢者や子育て世代をはじめ多様な市民のWell-Beingを高めるサービスを発想します。

構想推進の考え方

喫緊の課題への対応（アプローチ①）と、**未来へのチャレンジ**（アプローチ②）を組合せて取り組みながら浜松市の強みを最大化していきます。



推進体制（推進基盤）：

官民が連携し、モビリティサービスを生み出すプロジェクト創出を支援しています。
様々なプロジェクトが立ち上がり、創発性の高いエコシステムを形成しています。

浜松版MaaS構想

考えられるサービスのイメージ

アプローチ①：喫緊の課題への対応

安全・安心な暮らしの確保
経済の活性化

移動販売や配送の地域内連携	食料品等日常の買物が困難な地域における移動販売の促進や、支え合いによるラストワンマイル配送の実現
医療サービスとモビリティの連携	住み慣れた地域で必要な医療を受けられるための取組（巡回診療、遠隔診療、遠隔服薬指導、ドローンによる薬剤配送等）
様々な交通手段の連携による移動効率化	目的に合った最適な移動手段を選択可能とし、移動の効率化を促進
有事を見据えたサービス・デザイン	平時から、有事の際に有効なモビリティの運用方法を確立し、災害による道路寸断時の孤立地域への迅速な支援物資等の輸送を実現
誰もが使いやすい移動環境の整備	インバウンドも踏まえた、誰もが使いやすいモビリティサービスや環境の整備
サービスの組み合わせによるモビリティ資産の稼働率向上	モビリティ資産の遊休時間帯活用や、貨客混載等の複合目的による利活用
共助型地域交通の促進	公共交通の維持が困難な地域を中心に、住民が自家用車を用いて有償運送する共助型サービスの導入促進
移動や人流データの収集・活用	各種データの利活用により、交通安全・渋滞緩和対策を推進
観光や食資源との連携	モビリティで観光施設や資源・体験、さらには浜松パワーフードをはじめとする地場産品やグルメを繋ぎ、浜松の魅力を最大化し訴求効果を高める

アプローチ②：未来へのチャレンジ

楽しみ、賑わいの増進
Well-Beingの向上に貢献

上空や水上を含めた交通・物流網の構築	陸上のみならず、上空や海上、河川において利用可能なモビリティを用いた交通・物流網の構築
次世代モビリティの産業集積	新たなモビリティにおいても、ものづくり力を発揮できる環境を構築し、産業を集積する
自動運転車や自動運転支援道の活用	公共交通の維持が難しい地域、免許返納者の増加、人手不足への対応として自動運転車や自動運転支援道を活用
次世代パーソナル・モビリティの開発普及	まちなかや観光地の回遊性向上、免許返納者等の手軽な交通手段の確立
交通利用に関わる省エネルギー化	移動に伴う温室効果ガス削減に繋がる電動車等の普及促進や交通網の整備
モビリティを用いたエンターテイメント提供	ドローンショーや移動式の遊び場など、エンターテイメントを提供

現行（第一期）

浜松版MaaS構想

策　定：2021(令和3)年3月
浜松市デジタル･スマートシティ推進事業本部

Digital Smart City HAMAMATSU

背景

- 国は、骨太の方針で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、**地方都市の活性化に向けた環境整備の推進**を位置づけています。**移動環境の整備は重要施策の一つ**であり**「日本版MaaSの推進」**等の取り組みが成長戦略に位置づけられています。また国際社会における環境負荷低減の要請への対応も求められています。
- 本市は、人口減少・少子高齢化を背景に、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面しています。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、**各種サービスとモビリティの連携**による**持続可能なまちづくり**が求められています。
- 本市は**「デジタルファースト宣言」**のもと**デジタル・スマートシティの取り組み**を始動。データ利活用等で**MaaSの取り組みとの連携**が求められています。
- ウィズコロナ/ポストコロナ時代の「ニューノーマル」に対応した新たな環境整備の一つである**「デュアルモード社会」**の構築も求められています。

活かすべき本市の強み

- **多様な暮らし方**や**楽しみ方**を可能にする環境（国土縮図型都市／交通至便）
- 市民・企業の**やらまいか精神**や**共助の心**
- **ものづくり力**（世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカ等の集積／スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市）

目指す方向性（基本理念）

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と浜松の暮らしはもっと輝く

人口減少･少子高齢化で限られた資源（ヒト･モノ･コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。
さらに、ヒトの移動にとどまらない価値を創出し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

必要な視点１：地域ごとの魅力の最大化
都市部から中山間地まで多様な暮らし方･楽しみ方ができる本市の魅力を最大化します。

必要な視点２：ともに支え、ともに創造
人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。

必要な視点３：しなやかに繋がる
利用者目線のシームレスなサービスや自然災害･パンデミックへの備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。

必要な視点4：市民起点でのまちづくり
コンパクトでメリハリの効いたまちづくりとともに、デジタルテクノロジーは手段として捉え、高齢者や子育て世代をはじめ多様な市民の生活ニーズからサービスを発想します。

MaaS推進の考え方

喫緊の課題への対応（アプローチ①）と、**未来へのチャレンジ（アプローチ②）**を組合せて取り組みながら多様性･創造性といった浜松市の強みを最大化していきます。

市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」
浜松市未来ビジョン実現への貢献

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことで浜松の強みを最大化

多様な暮らし方（多様性）　市民・企業の共助／共創（助け合い）　ものづくり力（創造性）

喫緊の課題への対応
“交通・生活課題”の解決や“安全・安心”な暮らしの確保

アプローチ①
持続可能な地域を支える モビリティサービス

アプローチ②
より豊かな生活を創造する モビリティサービス

未来へのチャレンジ
移動負荷を軽減し“豊かさ・賑わい”を増進

蓄積
活用

モビリティサービス利用データ／人流データ

デジタル・スマートシティのデータ

推進体制：

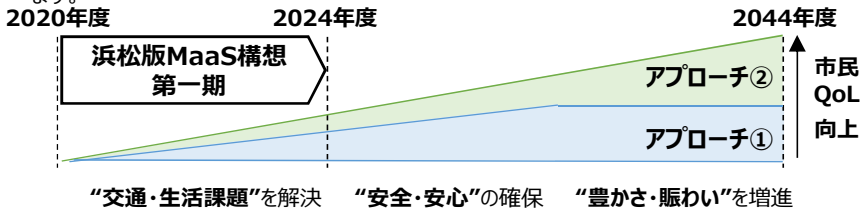
市民、企業･大学等、行政それぞれの主体的参加で創発性の高いエコシステムを形成していきます。

中核となる「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」

官民が連携し、モビリティサービスを生み出すプロジェクト創出を支援しています。「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創発性の高いエコシステムを形成しています。

ロードマップ：

2020年度から2024年度の5年間を第一期と位置づけ、交通･生活課題解決から着手し、モビリティとサービスの連携や官民共創の取り組みを推進し、浜松版MaaSの基礎固めを行います。



浜松版MaaS構想

策　定：2021(令和3)年3月
浜松市デジタル・スマートシティ推進事業本部

Digital Smart City HAMAMATSU

考えられるサービスのイメージ

“国土縮図型都市”と呼ばれる本市の多様なフィールドを活用し、市の全域でイノベーションを起こしていきます。

喫緊の課題への対応
“交通・生活課題”の解決や“安全・安心”な暮らしの確保

アプローチ①
持続可能な地域を支えるモビリティサービス

アプローチ②
より豊かな生活を創造するモビリティサービス

未来へのチャレンジ
移動負荷を軽減し“豊かさ・賑わい”を増進

移動販売や配送の地域内連携

買物難民や宅配業の人手不足等への対応として、支えあいによる小売や物流の促進

自動運転車の活用

中山間地域をはじめ、公共交通の維持が難しい地域での活用を検討

移動診療の推進（医療MaaS）

車を活用した遠隔診療や遠隔服薬指導、薬剤配送の推進

遊休モビリティ資産の活用

介護や福祉施設の送迎車両やスクールバスなど、昼間の遊休車両等の活用の促進

多拠点居住用サブスクMaaS（関係人口向けの移動環境）

「多拠点生活者」向けにサブスクで利用できる移動手段の提供など、多拠点居住者誘致に向けた環境整備

浜松テレワークパーク構想

クルマをオフィス空間として活用し、駐車場等の空きスペースを利用することで、景観や環境を自由に選べるサービスを官民共創で構築

自家用車を使った乗り合いの促進（自家用有償旅客運送等）

公共交通の維持が困難な地域を中心に、住民が自家用車を用いて、有償運送する共助型のサービスの導入を促進

観光資源との連携

モビリティで観光資源を繋いだり、観光施設やアクティビティとセットにしたチケットの販売等で浜松の魅力を最大化

異なる交通手段の連携や一体的運用・運営

異なる交通手段の連携やデマンド型の運行等を活用し、移動の効率化を促進

移動や人流データの活用・見える化（公共交通の効率化、アプリ活用など）

MaaSサービスの利用データや、ビーコン等で収集された人流データ等を活用し、運行の最適化や新たなサービスの創出を促進

フードデリバリープラットフォーム構築

浜松発の地方版、フードデリバリープラットフォームを官民連携で構築

商業施設等との連携

クーポンの配信やサイネージへのリコメンド情報の表示など、商業施設等との連携により、まちを活性化

イベント等との連携

食、音楽、演劇等、場所を問わず車で提供可能な様々なエンターテイメントを組み合わせ、浜松の豊かな自然を活用したイベントを提供

デュアルモード社会づくりへの貢献

自然災害やパンデミック発生など、移動が制限される際のドローン等の活用の検討

第一期（2020年度～2024年度）の取り組み

重点分野の取り組みと基盤づくりを推進し、本市が日本版MaaSを先導するエリアとなることを目指します。

重点分野

- **健康・医療・福祉**：中山間地域の医師不足や高齢化への対応など
- **生活インフラ**：高い自動車分担率・高齢者の免許返納への対応など
- **ウィズ／ポストコロナ**：デュアルモードへの対応など
- **防災・安全**：インフラメンテナンスや災害時の対応など

基盤づくり

- **エコシステム構築**：市民、企業・大学等、行政が連携し、創発性の高いエコシステム
- **データ利活用**：地域課題の解決や地域の活性化に向けた、データの利活用の促進

移動診療（医療MaaS）	自家用車乗り合い（自家用有償旅客運送）	フードデリバリー（浜松版プラットフォーム）	浜松テレパーク構想（クルマをオフィス空間に）	ドローン活用（平時・有事）

浜松市モビリティサービス推進コンソーシアムでのアイデアソン等	モビリティ分野のデータ利活用に関する勉強会開催等